

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月29日

上場会社名 ブロードメディア株式会社

上場取引所 東

コード番号 4347 URL <http://www.broadmedia.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 植村 保彦

TEL 03-6439-3725

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	9,233	△4.5	△501	—	△884	—	△1,087	—
25年3月期第3四半期	9,668	7.4	144	△73.6	△88	—	△135	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 △1,015百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 △99百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△16.68	—
25年3月期第3四半期	△2.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	10,705	5,817	48.4	79.49
25年3月期	12,529	6,930	50.6	97.30

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 5,184百万円 25年3月期 6,345百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	1.50	—	1.50	3.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	12,200	△5.9	△630	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	66,723,516 株	25年3月期	66,723,516 株
② 期末自己株式数	1,507,332 株	25年3月期	1,507,332 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	65,216,184 株	25年3月期3Q	65,216,184 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ435,046千円(4.5%)減少し、9,233,708千円(前年同期は9,668,754千円)となりました。「放送」「技術」は増収となりましたが、「スタジオ」「ネットワーク営業」の売上高が前年同期を大きく下回ったことが要因です。

営業損益は、501,407千円の営業損失(前年同期は144,787千円の営業利益)となりました。前年同期に営業損失であった「放送」が営業利益を計上し、「技術」が増益となったものの、他の3つのセグメントが営業損失を計上したことが要因です。

経常損益は、884,134千円の経常損失(前年同期は88,314千円の経常損失)となりました。営業損失に加え、持分法による投資損失が増加したこと等が主な要因です。

四半期純損益は、1,087,801千円の四半期純損失(前年同期は135,074千円の四半期純損失)となりました。持分法適用関連会社であるGクラスタ・グローバル株式会社が行った増資に伴い持分変動利益142,372千円が発生いたしました。ソフトウェアの減損損失を計上したことや、子会社において税金費用が増加したこと、繰延税金資産の取り崩しを行ったことにより、四半期純損失を計上いたしました。

[セグメント別事業内容(平成25年12月31日)]

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
コンテンツ	ホームエンタテインメント	<ul style="list-style-type: none"> クラウドゲーム事業 クラウドゲーム機「G-cluster」の販売及びクラウドゲームサービスの提供 通信事業者へのクラウドゲームプラットフォーム提供及びゲーム事業者へのクラウドゲーム機能提供 クラウドビデオ「T's TVレンタルビデオ」の提供 インタラクティブシステム「T's TVクラウド」の提供 	—
	映像サービス	<ul style="list-style-type: none"> PC・スマートフォン・タブレット向け、ドラマ専門映像配信サービス「ドラマMAXアリーナ」の提供 	ハリウッドチャンネル(株)
	CS放送会員サービス	<ul style="list-style-type: none"> CS放送視聴に関する独自の会員制サービス「Club iT」の運営 	—
	モバイルサービス	<ul style="list-style-type: none"> モバイルサイト「ハリウッドチャンネル」等、複数サイトの企画・運営 スマートフォンサイト「クランクイン!」等の企画・運営 	ハリウッドチャンネル(株)
	教育サービス	<ul style="list-style-type: none"> イーラーニングシステムを利用した単位制・通信制高校「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」の運営 科学検定委員会の運営 	ルネサンス・アカデミー(株)
	その他サービス	<ul style="list-style-type: none"> 「ナショナル ジオグラフィック」日本語版公式サイト等の運営等 	ルネサンス・アカデミー(株)
放送	釣り専門チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> 衛星一般放送事業「釣りビジョン」及び衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給 	(株)釣りビジョン
スタジオ	制作事業	<ul style="list-style-type: none"> 日本語字幕制作、日本語吹替制作、文字放送字幕制作、番組宣伝制作 	ブロードメディア・スタジオ(株)
	番組販売事業	<ul style="list-style-type: none"> ハリウッド映画等のテレビ局への供給 	
	映画配給事業	<ul style="list-style-type: none"> 劇場映画の配給、DVD/Blu-rayの発売、テレビ放映権の販売 	
技術	CDNサービス	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツを最適な形で配信するCDNサービスの提供 	CDNソリューションズ(株)
	デジタルシネマサービス	<ul style="list-style-type: none"> ブロードメディア®CDN for theaterの提供、及び上映システム的设计・販売及びレンタル 	—
		<ul style="list-style-type: none"> 映画館へデジタル機材の導入を推進する配給・興行向けVFPサービスの提供 	デジタルシネマ倶楽部(株)

ネットワーク 営業	ISPサービス販売	・「Yahoo! BB」ISPサービスの販売	—
	携帯電話サービスの取扱い	・「ソフトバンク・モバイル」の携帯電話サービスや携帯電話 端末の取り扱い	—
	ブロードバンド回線販売	・ブロードバンド回線「Yahoo! BB」の販売	—
	その他	・その他商材の販売	—

当第3四半期連結累計期間における各セグメントごとの売上高及び営業利益の概況は、以下のとおりです。

①コンテンツ

「コンテンツ」セグメントは、ホームエンタテインメント、映像サービス、CS放送会員サービス、モバイルサービス、教育サービス及びその他サービスで構成されており、テレビ・PC向けの動画配信、モバイル向けのコンテンツ配信、CS放送視聴に関する独自の会員制サービス及び広域通信制高校に至るまでの広範な事業を行っております。また、第1四半期連結累計期間よりホームエンタテインメントにおいて、クラウドゲーム事業を開始いたしました。

売上高は、前年同期と比べ28,328千円（1.4%）減少し、1,993,867千円（前年同期は2,022,195千円）となりました。教育サービスが堅調に推移し、今期から開始したクラウドゲーム事業の売上が発生しておりますが、既存事業であるCS放送会員サービスが縮小していること等により、減収となりました。

営業損益は、335,475千円の営業損失（前年同期は169,787千円の営業利益）となりました。科学検定の開始に伴う準備費用・広告宣伝費等が発生したことや、クラウドゲーム事業においてテレビCM出稿・販売促進キャンペーン等のプロモーション費用が増加したことが主な要因となり、営業損失を計上いたしました。

②放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、並びにBS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供給事業を行っております。

売上高は、前年同期と比べ590,513千円（22.4%）増加し、3,224,274千円（前年同期は2,633,761千円）、営業利益は136,874千円（前年同期は59,115千円の営業損失）となりました。

「BS釣りビジョン」の視聴料収入が順調に伸びていることや、制作売上が好調に推移したことが主な要因となり、売上が増加し、営業利益を計上いたしました。

③スタジオ

「スタジオ」セグメントは、映画やドラマ等の映像作品の調達、日本語字幕・吹替制作から、その作品の配給、販売を行っております。

制作事業は、受注が増加いたしました。原価率の上昇により増収減益となりました。また、番組販売事業は、テレビ局への販売が減少したことにより減収減益となりました。映画配給事業は、配給作品の興業成績の不調に加えて、DVD販売方法の変更により、従来よりも売上の計上時期が後ろ倒しとなっていることが影響し、損失を計上しております。これらの結果、売上高は、前年同期と比べ519,850千円（22.0%）減少し、1,838,451千円（前年同期は2,358,301千円）、営業損益は、175,486千円の営業損失（前年同期は174,935千円の営業利益）となりました。

④技術

「技術」セグメントは、「ブロードメディア[®]CDN」等のCDN（コンテンツ・デリバリー・ネットワーク）サービス及びデジタルシネマサービスを行っております。

売上高は、前年同期と比べ153,701千円（14.3%）増加し、1,226,400千円（前年同期は1,072,698千円）、営業利益は、前年同期と比べ26,765千円（128.1%）増加し、47,654千円（前年同期は20,889千円）となりました。デジタルシネマサービスにおいて、前年同期よりも機材の販売が増加したことや、サービスを提供する映画館や配給会社の数が増加したこと等が増収増益の主な要因です。

⑤ネットワーク営業

「ネットワーク営業」セグメントは、ISPサービスや携帯電話サービス、ブロードバンド回線等の販売代理店として、通信回線販売業者等の事業者を通じて販売活動を行っております。

売上高は、前年同期と比べ631,082千円（39.9%）減少し、950,714千円（前年同期は1,581,797千円）となりました。ISPサービスの販売が減少したことに加え、解約引当率が上昇したことにより、売上高は減少いたしました。

営業損益は、174,975千円の営業損失（前年同期は161,709千円の営業損失）となりました。販売費及び一般管理費を抑制いたしましたが、上記減収による影響を補いきれず、営業損失を計上いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(イ) 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,711,270千円減少し、5,683,283千円となりました。番組勘定の増加や、クラウドゲーム機「G-cluster」の仕入等による商品及び製品の増加があった一方で、現金及び預金や、受取手形及び売掛金が減少いたしました。また、短期貸付金や短期繰延税金資産を含むその他流動資産も減少しております。固定資産は、前連結会計年度末に比べ112,769千円減少し、5,022,558千円となりました。持分法による投資損失の計上等により投資有価証券が減少したことが主な要因です。これらの結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ1,824,039千円減少し、10,705,841千円となりました。

(ロ) 負債

流動負債は、買掛金が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ637,001千円減少し、3,206,986千円となりました。固定負債は、長期リース債務が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ73,849千円減少し、1,681,453千円となりました。これらの結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ710,850千円減少し、4,888,439千円となりました。

(ハ) 純資産

当第3四半期連結累計期間において、四半期純損失1,087,801千円を計上いたしました。また、97,824千円の剰余金の配当を実施しております。これらの結果、純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,113,189千円減少し、5,817,401千円となりました。これにより、自己資本比率は48.4%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ1,624,229千円減少し、1,336,719千円となりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、マイナス1,278,806千円（前年同期はプラス173,333千円）となりました。当第3四半期連結累計期間に税金等調整前四半期純損失787,811千円を計上いたしました。また、売上債権が減少した一方で、クラウドゲーム機「G-cluster」の仕入等によりたな卸資産は増加し、前受金も減少しております。これらの結果、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、マイナス264,875千円（前年同期はマイナス1,660,232千円）となりました。これは、リース資産を主とした固定資産の取得による支出360,099千円があったこと等によるものです。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、マイナス120,720千円（前年同期はプラス151,406千円）となりました。これは、セール・アンド・リースバックによる収入164,529千円があった一方で、リース債務の返済231,230千円や配当金の支払98,020千円を実施したこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、平成25年11月1日の決算発表時に公表した通期の連結業績予想を下記の通り修正いたしました。

1. 平成26年3月期通期 連結業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	13,000	△350	—	—	—
今回修正予想 (B)	12,200	△630	—	—	—
増減額 (B) - (A)	△800	△280	—	—	—
増減率 (%)	△6.2	—	—	—	—
(参考) 前期実績 (平成25年3月期)	12,968	166	△215	△424	△6.51

2. 修正の理由

<売上高>

「コンテンツ」セグメントのクラウドゲーム事業において、ゲーム機の販売やゲームコンテンツの充実等が想定よりも遅れております。また、「スタジオ」セグメントにおいては、映画興行成績の不調が続いていることに加え、DVDの販売時期が後ろ倒しになっております。これらの結果、売上高は前回発表を下回る見通しとなりました。

<営業利益>

上記減収の影響に加え、「コンテンツ」セグメントの教育事業において、2014年4月に開校を予定している、ルネサンス大阪高等学校の生徒募集費用や開校準備費用が追加的に発生する見込みであること等から、前回発表を下回る見通しとなりました。

<経常利益>及び<当期純利益>

前回発表時と同様に、Gクラスタ・グローバル株式会社及び湖南快樂垂釣發展有限公司における業績見込みの不確実性が高く、その業績が反映される経常利益及び当期純利益は予想が困難なため、引き続き開示を控えさせていただきます。

【参考】

通期連結業績予想のセグメント別内訳は以下の通りです。

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B) - (A)	前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B) - (A)
合計	13,000	12,200	△800	△350	△630	△280
コンテンツ	3,400	2,670	△730	△310	△440	△130
放送	4,200	4,250	50	100	160	60
スタジオ	2,700	2,510	△190	△20	△150	△130
技術	1,600	1,570	△30	90	45	△45
ネットワーク営業	1,100	1,200	100	△210	△245	△35

※ 上記の業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

特に下記要因により業績が異なる可能性があります。

- ・ クラウドゲーム事業の進捗が見通しと異なる場合
- ・ 映画配給事業の売上が予想と異なる場合
- ・ 「ネットワーク営業」の業績が見通しと異なる場合

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,960,949	1,336,719
受取手形及び売掛金	1,998,166	1,597,955
商品及び製品	10,675	457,574
仕掛品	134,109	129,506
原材料及び貯蔵品	104,689	114,623
番組勘定	996,938	1,311,472
その他	1,191,992	737,961
貸倒引当金	△2,967	△2,530
流動資産合計	7,394,553	5,683,283
固定資産		
有形固定資産		
リース資産（純額）	1,562,357	1,524,083
その他（純額）	220,334	222,474
有形固定資産合計	1,782,691	1,746,558
無形固定資産		
のれん	88,506	49,886
その他	425,758	389,962
無形固定資産合計	514,264	439,848
投資その他の資産		
投資有価証券	2,379,160	2,216,886
その他	462,784	629,468
貸倒引当金	△3,572	△10,203
投資その他の資産合計	2,838,371	2,836,151
固定資産合計	5,135,328	5,022,558
資産合計	12,529,881	10,705,841

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	710,322	465,106
短期借入金	456,000	500,000
未払法人税等	146,480	80,129
賞与引当金	122,973	56,375
その他	2,408,211	2,105,375
流動負債合計	3,843,987	3,206,986
固定負債		
退職給付引当金	79,720	93,774
役員退職慰労引当金	74,249	82,499
リース債務	1,479,494	1,438,884
その他	121,838	66,293
固定負債合計	1,755,302	1,681,453
負債合計	5,599,290	4,888,439
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,666,633	2,666,633
資本剰余金	2,270,490	2,270,490
利益剰余金	1,569,355	383,729
自己株式	△228,445	△228,445
株主資本合計	6,278,034	5,092,408
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	24,523	40,609
繰延ヘッジ損益	10,763	—
為替換算調整勘定	32,426	51,055
その他の包括利益累計額合計	67,712	91,665
少数株主持分	584,843	633,328
純資産合計	6,930,591	5,817,401
負債純資産合計	12,529,881	10,705,841

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	9,668,754	9,233,708
売上原価	6,546,393	6,266,810
売上総利益	3,122,361	2,966,897
販売費及び一般管理費	2,977,574	3,468,305
営業利益又は営業損失(△)	144,787	△501,407
営業外収益		
受取利息	2,432	10,090
受取配当金	2,526	2,200
為替差益	4,449	34,487
その他	10,027	13,073
営業外収益合計	19,435	59,850
営業外費用		
支払利息	88,016	103,395
持分法による投資損失	154,497	335,698
その他	10,023	3,484
営業外費用合計	252,537	442,577
経常損失(△)	△88,314	△884,134
特別利益		
固定資産売却益	—	10
投資有価証券売却益	327	—
段階取得に係る差益	53,118	—
持分変動利益	—	142,372
特別利益合計	53,446	142,382
特別損失		
減損損失	—	46,059
投資有価証券評価損	1,593	—
特別損失合計	1,593	46,059
税金等調整前四半期純損失(△)	△36,461	△787,811
法人税、住民税及び事業税	108,766	119,963
法人税等調整額	△29,659	131,542
法人税等合計	79,107	251,505
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△115,569	△1,039,317
少数株主利益	19,505	48,484
四半期純損失(△)	△135,074	△1,087,801

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△115,569	△1,039,317
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,132	16,086
繰延ヘッジ損益	—	△10,763
持分法適用会社に対する持分相当額	20,112	18,629
その他の包括利益合計	15,980	23,952
四半期包括利益	△99,589	△1,015,364
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△119,094	△1,063,848
少数株主に係る四半期包括利益	19,505	48,484

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△36,461	△787,811
減価償却費	319,486	367,699
減損損失	—	46,059
のれん償却額	50,520	38,620
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4,072	6,193
賞与引当金の増減額(△は減少)	△52,534	△66,598
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	8,250	8,250
受取利息及び受取配当金	△4,958	△12,290
支払利息	88,016	103,395
持分法による投資損益(△は益)	154,497	335,698
投資有価証券売却損益(△は益)	△327	—
投資有価証券評価損益(△は益)	1,593	—
段階取得に係る差益	△53,118	—
持分変動損益(△は益)	—	△142,372
売上債権の増減額(△は増加)	187,092	400,211
たな卸資産の増減額(△は増加)	147,470	△766,782
仕入債務の増減額(△は減少)	△285,675	△245,216
未払又は未収消費税等の増減額	37,253	△79,155
その他の資産・負債の増減額	△337,212	△189,683
その他	9,767	△41,585
小計	237,731	△1,025,368
利息及び配当金の受取額	28,312	34,622
利息の支払額	△88,660	△102,263
法人税等の支払額	△4,049	△185,796
営業活動によるキャッシュ・フロー	173,333	△1,278,806
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△734,200	△360,099
投資有価証券の取得による支出	△812,649	△10,000
投資有価証券の売却による収入	200,088	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△889	—
出資金の払込による支出	△25,000	—
出資金の回収による収入	3,503	3,000
定期預金の純増減額(△は増加)	50,514	—
貸付けによる支出	△339,500	△280,000
貸付金の回収による収入	972	369,000
差入保証金の差入による支出	△14,128	△14,299
差入保証金の回収による収入	10,818	7,510
その他	237	20,013
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,660,232	△264,875
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△65,000	44,000
配当金の支払額	△191,915	△98,020
セール・アンド・リースバックによる収入	562,140	164,529
リース債務の返済による支出	△153,819	△231,230
財務活動によるキャッシュ・フロー	151,406	△120,720
現金及び現金同等物に係る換算差額	440	40,172
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,335,051	△1,624,229
現金及び現金同等物の期首残高	3,480,249	2,960,949
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,145,198	1,336,719

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	
売上高	2,022,195	2,633,761	2,358,301	1,072,698	1,581,797	9,668,754
セグメント利益又は損失(△)	169,787	△59,115	174,935	20,889	△161,709	144,787

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に計上した額は一致しており、記載すべき事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「技術」セグメントにおいて、持分法適用の関連会社であったデジタルシネマ倶楽部(株)の株式を追加取得したことにより、同社を連結子会社としました。なお、当該事象によるのれんの発生額は、当第3四半期連結累計期間においては79,331千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	
売上高	1,993,867	3,224,274	1,838,451	1,226,400	950,714	9,233,708
セグメント利益又は損失(△)	△335,475	136,874	△175,486	47,654	△174,975	△501,407

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書の営業損失に計上した額は一致しており、記載すべき事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「コンテンツ」セグメントにおける事業用資産について、減損損失を認識致しました。なお、当該減損損失の計上額は、第3四半期連結累計期間において46,059千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社の持分法適用関連会社であるGクラスタ・グローバル株式会社は、平成25年12月27日開催の臨時株主総会において、Orange S.A.の子会社であるAtlas Services Belgiumを引受先とした、資本業務提携に伴う第三者割当増資を決議し、平成26年1月8日に払込が完了いたしました。これにより、当社のGクラスタ・グローバル株式会社に対する議決権比率は32.5%となり、第4四半期連結会計期間において持分変動利益118,430千円が計上される見込みであります。